

ユーザーガイド

Air Remote TTL-F

他の言語は次の URL にアクセスしてください。
www.profoto.com/support



プロフォト製品をご購入いただき、ありがとうございます。

新しいフラッシュやライトシェーピングツールを含む弊社製品には、ほぼ半世紀に及ぶノウハウが蓄積されています。

長らく弊社が重視してきたことは、わずかな細部にもこだわることです。弊社では、完全に信頼できる製品にのみ弊社のブランド名を冠していません。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷されたプロフォト製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。製品の購入は始まりにすぎません。ライティングには多様な創意工夫が伴いますが、弊社では、あらゆるライティング方法と幅広いライトシェーピングツールを提供できることを誇りに考えております。

ライティングの可能性は無限で最初は戸惑うかもしれませんが、すぐにコツを掴めるでしょう。

ライティングについてのヒントや詳しい情報は、弊社のニュースレターにサインアップするか、弊社ホームページ (profoto.com/jp/profoto-stories) をご覧ください。プロフォト製ライトシェーピングツールを活用して撮影した、フォトグラファーによる作品を見られます。

プロフォト製品をぜひご活用ください。

Conny Dufgran (創業者)

安全に関する一般的な注意事項



安全注意事項

装置使用前に常時備え付けの取扱説明書および付属の安全のための注意事項をよくお読みください。本書は必ず製品と共に保管してください。プロフォト製品はプロの使用を想定して設計されています。ジェネレーター、ランプヘッド、アクセサリ類は屋内での撮影以外に使用しないでください。湿気、強い電磁場、可燃性ガスや粉塵が存在する環境では、製品の保管や使用を避けてください。製品を水没させたり、水滴のかかる場所で使用したりしないでください。花瓶など、水の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。湿度の高い環境下では、極端な温度変化を避けてください。製品内部に結露が生じる可能性があります。本製品を他社製ストロボやスタジオライトに接続しないでください。付属の保護用ガラスカバーまたは保護用グリッドがない状態でフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひび割れや深い傷など、目に見える破損があり通常の効果が得られない状態になっている場合は使用せず正常なものと交換してください。ランプが損傷したり熱で変形した場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は絶対に素手で電球を触らないよう注意してください。装置の点検、改造、修理は、認定された資格を有する要員のみが行う必要があります。警告-フラッシュシンボルが表示された端末は危険です。



警告: 高電圧による感電の危険性

主電源給電のジェネレーターは、常に保護アース接続のある電源コンセントに接続されていなくてはなりません。プロフォト製の延長コード以外は使用しないでください! ジェネレーターやランプヘッドの蓋を開けたり、分解したりしないでください! 製品は高電圧で動作します。ジェネレーターのコンデンサは、電源を切った後も長時間帯電し続けます。アンブレラの金属製のシャフトをリフレクターの穴に差し込む際はモデリングランプやフラッシュチューブに触れないよう注意してください。モデリングランプやフラッシュチューブを交換する際は、ランプヘッドとジェネレーターを接続するランプヘッドケーブルを取り外してから行ってください! 電源プラグや電源接続器は、断路装置としての役割を担っています。断路装置は常に操作可能でなければなりません。バッテリー (バッテリーパックまたは個別電池・バッテリー) を直射日光や火などの熱源にさらさないでください。



注意: 高温部品によるやけどの危険性

装置の高温になっている部分には素手で触れないでください。モデリングランプ、フラッシュチューブ、その他いくつかの金属の部品は使用中に高温を発生します! モデリングランプやフラッシュチューブを人に向けて近付けすぎないようにしてください。ランプはすべてごくまれに破裂し、高温の破片が飛び散ることがあります! モデリングランプの定格電圧が、ユーザーガイドのテクニカルデータの電源の欄に記載されている定格電圧に合致していることを必ず確認してください!

RF についての注意事項

本製品は無線通信時に特定の無線周波帯を使用します。本製品を照明セットで使用する場合は、適切な注意が必要です。本書に記載された仕様、特に動作温度と供給電圧範囲に関する仕様には必ず従ってください。製品は必ず現地の規制に基づいて使用してください。本製品が使用する周波数帯は他の装置も使用します。電波干渉を完全に排除することはできません。



最終処分

本製品は環境に有害な電気・電子部品を含んでいます。プロフォト販売店にご返却いただければ、WEEE 指令などに従って無料でリサイクルできます。廃棄の際は、廃棄物の個別処分に関する準拠法 (例えばヨーロッパ市場における電気・電子器具処分の WEEE 指令) を遵守してください。

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| システム概要および互換製品..... | 7 |
| Profoto Air でのワイヤレス操作に関する一般的注意事項..... | 8 |
| 各部名称..... | 9 |
| 取扱説明書..... | 11 |
| クイックガイド..... | 11 |
| 電源のオン/オフ..... | 12 |
| チャンネル選択..... | 12 |
| シンクロ選択..... | 12 |
| HSS (FP フラッシュ)..... | 12 |
| モード選択 (TTL または MAN)..... | 13 |
| TTL (自動モード) モードでの操作..... | 13 |
| MAN モードでの操作..... | 15 |
| シンクロのテスト..... | 16 |
| その他..... | 17 |
| 初期設定にリセットする..... | 17 |
| バッテリー残量確認と内蔵節電機能..... | 17 |
| ファームウェアの確認..... | 17 |
| ファームウェアのアップグレード..... | 17 |
| 技術仕様..... | 18 |
| 規制情報..... | 20 |

システム概要および互換製品

Air Remote TTL-Fはフラッシュの扱いを簡単にする、小型で軽量の装置です。これをお手持ちのカメラのホットシューにマウントすると、カメラはプロフォト製フラッシュへワイヤレス拡張され、TTL (Through-The-Lens) 露出制御、そして手動でプロフォト製ライトのシンクロと調節ができる機能が備わります。

- Air Remote TTL-Fは富士フィルム製のカメラ用に特に設計されています。
- 一部のカメラには対応しないか、機能が制限されています。profoto.com/myprofotoで無料のユーザーアカウントを作成し、最新版ファームウェアを確認の上インストールするか、更新された対応カメラ一覧が添付されたリリースノートをダウンロードしてください。
- Air Remote TTL-Fはプロフォト製のフラッシュユニットおよびジェネレーターとの組み合わせで動作します。内蔵 Profoto Air 機能の対応状況は以下の表のとおりです。
- Air Remote TTL-F で Air Remote トランシーバーおよび Air Sync Profoto Air トランシーバーを始動させることもできます。
- Air Remote TTL-Fは、富士フィルム製スピードライトその他、プロフォト製でないフラッシュとの組み合わせでは使用できません。
- Air Remote TTL-Fには他社製のワイヤレス始動システムとの互換性はありません。

| プロフォト製フラッシュ上の Airラベル | Air Remote TTL-Fで使用できる機能 | | | |
|-------------------------|--------------------------|---------|-----|-----|
| | マニュアルシンクロ | ワイヤレス制御 | TTL | HSS |
| Air TTL | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Air | ○ | ○ | | |
| AirS | ○ | | | |

注意!

Profoto A1フラッシュはAir TTLと完全互換であり、Air Remote TTL-Fと合わせてオフカメラモードで使用できます。

Profoto Air でのワイヤレス操作に関する一般的注意事項

Profoto Air の 1 ～ 8 チャンネルは 2.4 GHz 帯で 8 種類の周波数を使用します。到達距離は 300 メートルです。周波数は周波数帯の全域で均等に配分されています。各チャンネルが異なるワイヤレス周波数を持つため、Profoto Air を使用する他のカメラマンや WLAN、Bluetooth デバイス、2.4 GHz 周波数帯で作動する他のワイヤレス装置によって干渉されないチャンネルを選ぶことができます。

- ケーブルやコードはアンテナから離してください。
- 可能な場合は常に Air Remote TTL-F とフラッシュユニットの間の見通し線を維持してください。
- 見通し線を確保できない場合は、到達距離が減少するため、金属製の物体や水が満たされた容器を間に挟まないように注意してください。

各部名称



1. ON ボタン
2. ディスプレイ
3. エネルギーボタン
4. グループボタン(A, B, C)
5. テストボタン
6. モードボタン
7. 同期ボタン
8. チャンネルボタン
9. ヘッドボタン
10. モデルボタン



11. バッテリー収納部

12. ホットシューコネクタ

13. USBポート

14. ロック機構

取扱説明書

クイックガイド

詳しい操作方法については後続の項を参照してください。

プロフォト製フラッシュのセットアップ

1. フラッシュを Radio/Air (フラッシュモデルにより異なる) 経由シンク口に設定します。
2. すべてのフラッシュに同じワイヤレスチャンネルを選択します。
3. 同時に制御するランプヘッドすべてに同じグループ (A、B、Cのいずれか) を選択してください。

Air Remote TTL-F

4. Air Remote TTL-F のホットシューコネクタをカメラのホットシューにスライドさせて差し込みます。ロック機構 [14] を締めて装置を固定します。
5. リモコンのスイッチをオンにします。
6. リモコンにフラッシュと同じワイヤレスチャンネルを選択します。
7. TTL (自動) モードと MAN (手動) モードを切り替えるには、モードボタン [6] を押します。
8. A、B、C ボタンで対応するグループを選択します。
9. グループ選択時：
 - a) HEAD ボタン [9] を押してランプヘッド/フラッシュのオン/オフを切り換えます。
 - b) MODEL ボタン [10] を押してモデリングライトのオン/オフを切り換えます。
 - c) ENERGY ボタン [3] を押してエネルギーレベルを調整します。TTL モードではグループ間の相対エネルギーレベルが、MAN モードでは単純に一つのグループのエネルギーレベルが調整されます。TTL モードと MAN モードではエネルギー調整のしくみが異なるため、本ユーザーガイドの 13～16 ページに記載されている両モードの操作説明をよくお読みください。
10. TEST ボタン [5] を押して手動でシンク口信号を送信し、設定をテストします。

電源のオン/オフ

1. ON ボタン [1] を長押しして、リモコンの電源のオン/オフを切り換えます。

注意!

操作のない状態で30分経過すると、リモコンの電源が自動的にオフになります。リモコンの起動時に「Energy+」ボタン[3]を長押しして、自動電源オフを無効にすることができます。機能が無効になると、確認のために短いピープ音が2回鳴ります。

自動電源オフを無効にした場合、操作のない状態で約20時間で新しいバッテリーが空になることに注意してください。カメラは決してサイレントドライブモードにはしないでください。

12 チャンネル選択

現在選択されているチャンネルはディスプレイ [2] の CHANNEL セクションに表示されます。

1. 設定したいチャンネルが表示されるまで、チャンネルボタン [8] を繰り返し押ししてください。

シンクロ選択

選択されたシンクロ設定(カメラシンクロ設定)はディスプレイ [2] 上の SYNC セクションに表示されます。

- 1st(後幕):シャッターが開いた直後に発光します。
- 2nd(後幕):2回目のシャッターが閉じようとするときに発光します。
- Hi-S(ハイスピードシンクロ):オート FP が選択されます。シャッター速度に応じてカメラは自動的に HSS または最初のシャッターで発光します。

注意:

シャッターの X-sync 速度を超える速度で写真撮影する場合に HSS フラッシュが必要になります。HSS はリーフシャッターでは通常使用されません。

HSS (FP フラッシュ)

HSSを使用すると、カメラ側の同調速度よりも速いシャッター速度(最速1/8000秒)で発光できます。ただしHSS使用時の最高同調速度はカメラの機種によって異なります。HSSは、環境光が明るい場合に便利です。

注意!

- HSSフラッシュの使用時は、シャッターが開いている間、継続的に光出力を得るためにフラッシュが発光し続けます。フラッシュのモデルにより、正確な範囲は異なる場合があります。
- HSSを頻繁に使用すると、フラッシュチューブの寿命に影響を及ぼします。
- この機能を使用するには、リモートとAirTTLフラッシュにはファームウェアの更新が必要な場合があります。最新のアップデートと対応するカメラの一覧については、profoto.com/myprofotoにアクセスしてください。パーソナルアカウントを作成してログインし、新しいすべてのアップグレードをご利用ください。

モード選択 (TTLまたはMAN)

現在選択されているモードはディスプレイ [2] の MODE セクションに表示されます。

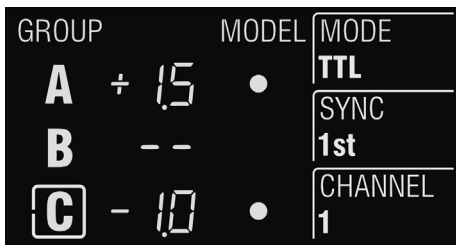
1. TTL モードと MAN モードを切り替えるにはモードボタン [6] を押します。
 - TTLモード: カメラが発光量を制御します。グループA、B、C間のエネルギーレベルを相対的に調節できます。
 - MANモード: グループA、B、Cの光出力を手動で制御できます。

TTL (自動モード) モードでの操作

TTLモードではカメラが発光量を制御します。複数のライトを使用している場合、A～Dグループ間の光量補正を相対的に調節できます。これにより各方向からの発光量を調節できます。

- グループボタン [4] のA、B、Cを押して、調節したいグループが選択できます。
- ENERGYボタン [3] を使用して、他のグループとの相対で選択グループの出力を設定できます。グループA、B、Cの相対関係設定は±2.0fストップで調節可能です。相対関係と露出補正を混同しないでください。この項の最後にある注意をすべてよくお読みください。
- フラッシュ露出の全体を補正するには、カメラのフラッシュ露出補正機能を使用してください。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。
- モデルボタン [10] を押して、選択したグループのモデリングライトのオン/オフを切り替えることができます。
- ヘッドボタン [9] を押して、選択したグループのランプヘッドのオン/オフ切り替えることができます (グループのヘッドがオフになっている場合、そのグループの相対関係値は '--' と表示されます)

- MAN モードを TTL モードに切り替えると、前回の TTL 相対関係値が表示されます。



TTL モードでのリモコンディスプレイ [2] 設定例

この図のディスプレイ [2] は以下の状況を表しています：

- TTL モード、1st カーテンシンクロ、そしてチャンネル 1 が選択されている。
- 調節対象としてグループ C が選択されている。
- グループ A のライトの光出力を、グループ C のライトより 2.5 f ストップ上回るように設定 (A に +1.5 f ストップ、C に -1.0 f ストップを設定)。
- グループ B のライト/ヘッドはオフである。
- グループ A と C でモデリングライトがオンになっている。

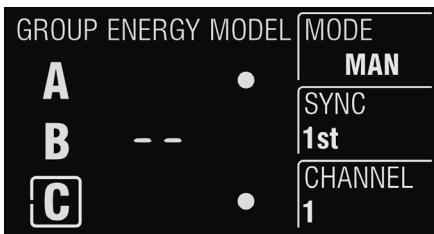
注意：

- 相対関係値をフラッシュの露出補正と混同しないでください。フラッシュ露出の全体を補正するには、カメラのフラッシュ露出補正機能を常に使用してください。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。
- Profoto AirTTL 非対応のフラッシュが TTL モードの Profoto AirTTL フラッシュと組み合わせて使用すると、非 TTL フラッシュのフラッシュ出力が全フラッシュ露出に加わり、Profoto AirTTL 非対応ライトは、例えば背景の露出を手動設定する場合などに使用できません。
- Profoto AirTTL 互換フラッシュをグループ D、E、または F に設定した場合、シンクロはされますが、TTL 計算対象とはなりません。これらのライトの発光は全体の発光量に加算され、例えば背景の露出を手動設定する場合などに使用できます。
- カメラはユーザーインターフェイス内からモード選択をサポートできます。リモートはそれに従って設定が更新されます。

MANモードでの操作

Air Remote TTL-FをMANモードに設定すると、グループA、B、Cの光出力を手動で調節できます。TTLモードとMANモードで交互にテストすることにより、ご自身がイメージした光に近づけていくことができます。

- A、B、C グループボタン [4] を押して、対応するグループを選択してください。
- 全グループを選択するには、グループボタン [4] のいずれかを2回押してください。
- ENERGY ボタン [3] を押して、そのグループの光出力を調節できます。調節 (増/減) は常に現在の光出力設定から開始され、調節値はディスプレイ [2] 上のENERGYセクションに一瞬表示されます。
- モデルボタン [10] を押して、選択したグループのモデリングライトのオン/オフを切り替えることができます。
- ヘッドボタン [9] を押して、選択したグループのランプヘッドのオン/オフ切り替えることができます (グループのヘッドがオフになっている場合、そのグループの相対関係値は '--' と表示されます)



MANモードでのリモコンディスプレイ [2] 設定例

この図のディスプレイ [2] は以下の状況を表しています：

- MAN モード、1st カーテンシンクロ、そしてチャンネル 1 が選択されている。
- 調節対象としてグループ C が選択されている。
- グループ B のライト/ヘッドはオフである。
- グループ A と C でモデリングライトがオンになっている。グループ A または C の光出力を調節すると、そのエネルギー変更結果が一瞬表示されます。

注意：

- ENERGY ボタンを押すと、1/10f ストップ刻みで増減できます。
- ENERGY ボタンを長押しすると、1f ストップ刻みで増減できます。
- エネルギー範囲外にあるため光出力をフラッシュによって設定できない場合、Air Remote TTL-F はピープ音を発し、コマンドが実行されなかったことを知らせます。この場合、特定グループ内のライトの発光量はいずれも変更されません。
- 全グループが選択された場合は、グループ D、E、F (フラッシュで選択) の光もリモコンで制御されます。

シンクロのテスト

- テストボタン [6] を押して手動でシンクロ信号を送信します。

その他

初期設定にリセットする

Air Remote TTL-F を工場出荷時設定にリセットします。

- Air Remote TTL-F の電源をオフにします。
- グループボタン C [4] と ON ボタン [1] を同時に長押しします。

バッテリー残量確認と内蔵節電機能

バッテリーの電圧が深刻レベルに達すると、低バッテリーマークが表示されます。



バッテリー節約のため、操作のない状態で 30 分経過すると自動的にディスプレイの電源がオフになります。ON ボタン [1] を押してディスプレイの電源をオンにします。ディスプレイの電源は、機能ボタンのいずれを使用してもオンになります。

ファームウェアの確認

リモートがオンになったら、モードボタン [6] を 5 秒間押し続けます。

ファームウェアのアップグレード

新しい Air Remote TTL-F を使い始める前に、ファームウェアのアップグレードを確認することをお勧めします。

最新の無料アップグレードを利用するには、profoto.com/myprofoto でパーソナルアカウントを作成します。アカウントを作成して製品登録を行うと、新しいアップグレードがリリースされた際に通知が届くようになります。

ファームウェアのアップグレードは、リモート上の USB ポート [13] を介して行います。profoto.com/myprofoto からダウンロードしたアップグレードアプリケーションの指示に従ってください。Profoto 正規販売店に連絡すれば、いつでも専門サービスを受けられます。

富士フィルム製カメラを最新バージョンにアップグレードするには、富士フィルムのウェブページにアクセスしてください。

技術仕様

| | |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 仕様 | |
| 周波数帯 | 2.4GHz (2404～2479.3 MHz) |
| 周波数チャンネル数 | 8チャンネル(1～8) |
| 無線パワー出力: | 最大 10mW |
| チャンネルごとのグループ数 | 3(A-C) |
| 調光モード | TTL & Manual |
| カメラ側 TTL 機能との互換性 | profoto.com/myprofoto にある最新リリースノートで、最新のファームウェアアップグレード、および Air Remote TTL-F との連携が承認された富士フィルム製カメラ一覧をご覧ください。 |
| シンクロモード: | カメラのフラッシュモードを 1st、2nd、Hi-S に設定してください: AUTO FP。 |
| カメラマウント/コネクタ | 富士フィルム製カメラのホットシューマウントファームウェアアップグレード用 USB ミニコネクタ |
| 到達距離 | ノーマルトリガーでは最大 300 m (1000 フィート) |
| | リモートコントロールおよび TTL では最大 100 m (330 フィート) |
| バッテリータイプ | 2xAAA, 1.5V (リチウムではありません) |
| 一般的なバッテリー寿命 | 30 時間 |
| アンテナタイプ | 内蔵型 |
| LCD ディスプレイ | 搭載 |

| | |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 電源オートオフ | リモコン: 操作のない状態で30分経過すると電源がオフになります (無効にすることもできます) ディスプレイ: 操作のない状態で20秒経過すると、画面が暗くなります。操作のない状態で2分経過すると、電源がオフになります。 |
| Profoto Airの対応機能 | |
| シンクロ・発光 | 対応します。Air Remote TTL-FはAir Remote トランシーバー、Air Sync トランシーバー、そしてラベルがAirTTL、Air、AirSであるすべてのプロフォト製フラッシュをトリガーできます。 |
| ワイヤレス制御 | 対応します。Air Remote TTL-Fは、ラベルがAirTTL、Airであるすべてのプロフォト製フラッシュの手動リモートコントロールとして使用できます。 |
| TTL調光 | ProfotoブランドのAirTTL搭載ライト全機種で、TTLグループ調光に対応 |
| HSS | ラベルがAirTTLであるすべてがプロフォト製フラッシュでHSSが可能 |
| サイズ | |
| 寸法 | 75x60x35 mm / 2.9x2.3x1.4 インチ |
| 重量 | 75 g / 2.6 オンス (バッテリー含む) |

すべての数値は公称値であり、プロフォト社は予告なしに変更する場合があります。

規制情報

各国における無線周帯の使用

Profoto Air システムは、ライセンスフリーの SRD (ショートレンジデバイス) 用 2.4 GHz ISM 帯で作動します。この帯は、世界のほとんどの場所で使用できます。ただし、地域的な制約が適用される場合があります。

注意

Air Remote TTL-F を使用する地域の国別規制を参照し、準拠していることを確認してください

EU 適合宣言

Profoto AB は、無線機器タイプ Profoto Air Remote TTL-F が指令 2014/53/EU に適合していることをここに宣言します。EU 適合宣言の全文は下の Web サイトから入手できます：<http://media.profoto.com/DoC>

米国とカナダ

F.C.C. とカナダ産業省

コンプライアンス声明 (パート 15.19) 本装置は、FCC 規則のパート 15 およびカナダ産業省の RSS-210 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件に従います：

1. 本装置は有害な干渉を起こすことはありません、そして、
2. 本装置は、予期せぬ混信の影響により、操作ができなくなることがあります。

警告(パート 15.21)

コンプライアンスに責任を負う当事者によって明らかに承認されないいかなる変更または修正も、装置を操作するユーザーの権限を無効にすることがあります。

Ce dispositif est conforme aux normes RSS-210 d'Industrie Canada. L'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes:

1. il ne doit pas produire de brouillage et
2. l'utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

証明/登録番号の前の「IC」という文字は、カナダ産業省の技術仕様に適合していることを表すものです。

Les lettres 'IC' n'ont aucune autre signification ni aucun autre but que d'identifier ce qui suit comme le numéro de certification/d'enregistrement d'Industrie Canada.

プロフォト株式会社

トランスミッター/レシーバー

モデル: Profoto Air Remote TTL-F

製品番号: PCA5451-0000

以下を含みます:

FCC ID: W4G-RMI および IC: 8167A-RMI

スウェーデン製

日本

このモジュールは、日本での販売および使用許可を得ています。

特定無線設備の種類

指定無線装置の分類:

第2条、1節、19項

2.4GHz広帯域低電力データ通信

上記のとおり、電波法第38条の24第1項の規定に基づく認証を行ったものであることを証する。

これは、無線法の第38～24条第1文の条項に従って上述の認証がタイプごとに付与されていることを証明するものです。



R 202WW08109202

R 202WW08109203

R 202WW08109204

台湾

經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。

前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

テクニカルデータおよび製品情報は予告なしに変更されることがあります。

104314-A1.2017年12月スエーデンで印刷

プロフォト株式会社
東京都中央区湊 1-1-12

HSB 鉄砲洲ビル 3F

03-3206-1861
info@profoto.jp
www.profoto.com/jp

 **Profoto**